

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	16-B1 人体の不思議		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	コミュニケーションの生物学	脳と心	
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	蒔田 直昌	責任部局	医歯薬(医学系)
趣 旨	心と身体の健康は最も大切なものである。どのように健康が維持されているのか知ることは意義深い。本モジュール I では、遺伝子、細胞、臓器レベルで生命現象の基本事項を概説するとともに、医療技術の一つである人工内耳を取り上げ最先端の臨床医学を紹介する。複雑な生命現象・人体の不思議を科学する医学についての教養・知識を深める。		
学生の皆さんへのメッセージ	近年の分子生物学、遺伝学、遺伝子工学、医療工学の進歩により、基礎医学・臨床医学の発展はめざましく、生命活動の営みや様々な病気のメカニズムが分子レベルで明らかになりつつあります。医学の知識を習得することによって、充実した教養課程となる一翼を担うことができればと思います。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
人体の構造と機能	蒔田 直昌 辻 幸臣 佐伯 和信 石川 泰輔	医学を理解するうえで必要な知識を学ぶ。ヒトの身体の構造(解剖学)と機能(生理学)を系統立てて学び、精妙な生命現象を理解する。主要臓器のかたちやはたらきを概説するとともに、心臓と運動器などに関わるトピックスを取り上げる。	生理学 解剖学
遺伝子と生命	吉浦 孝一郎	遺伝子から細胞までの言葉の説明や細胞が生きていて活動しているということを分子という視点で説明しています。人体の構造と機能と並んで、モジュールにはなじまない講義かもしれないのですが、「基礎」と思って講義しています。各講師の担当で1回は、市民公開講座のような、おもしろネタをしゃべってもらっています。	遺伝学
ヒトの感覚機能とその障害	高橋 晴雄 吉田 晴郎 原 稔 神田 幸彦	ヒトの感覚には視覚、聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚のいわゆる五感があり、とくに聴覚、視覚を駆使して人は言語という高度な文化を持つにいたった。それらの感覚をどのように人は感受しているのか、またそれが障害された時に何が起るのかを解説する。聴覚の最先端医療である人工内耳の原理と現状も講義に含まれる。	耳鼻咽喉科学

全学モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
人体の構造と機能	○		○				○			◎	○	○			○	
遺伝子と生命	◎		○							◎	○	◎				
ヒトの感覚機能とその障害	○		○				○			◎	○				○	
◎(特に重視)の数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0
○(重視)の数	2	0	3	0	0	0	2	0	0	0	3	1	0	0	2	0

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	16-B2 健康と共生		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	ハンディキャップの理解	青壮年期における健康課題	
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	宮原 春美	責任部局	医歯薬(保健学系)
趣旨	健康とは単に病気がないという状態ではなく、身体的・心理的・社会的・霊的に安寧な状態をいう。また健康問題を考えると病気や障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる(共生)という視点が重要である。ここでの「共生」には「インクルージョン」「人権」「リハビリテーション」も含まれる。そのためにモジュール I では健康と共生について学ぶための基本的知識について概観する。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は特に問いませんが、健康問題に関心がある方、ほかの人と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。受け身の学習態度ではなく積極的な学習態度で臨んでほしいと思います。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
人の一生と健康	折口 智樹 花田 裕子 澤井 照光	人の各ライフサイクル(乳幼児期、学童期、思春期・青年期、壮年期、更年期、老年期)における健康問題について理解できる。	ライフサイクル 健康問題
性と生	宮原 春美 宮田 康好 井田 洋子 安日 泰子	人間の性は本能ではなく学習により獲得されることが一つの特徴である。「性」をテーマとして、自己と他者への思考を深め、人間の性の発達と健康問題について理解できる。	セクシュアリティ 多様性 性行動 同意
社会における精神健康	中根 秀之	社会から見た心理学・精神医学的側面、精神障害に関する基礎的内容(精神障害、その支援)について理解する。	シネマ・サイキアトリー、精神保健、精神障害

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
人の一生と健康	○	○	◎	○	○			○		○		◎	○	○	◎	○
性と生	○	○	◎	○	○			○		○		◎	○	○	◎	○
社会における精神健康	◎	○	○		○			○	○	○		◎		○	○	○
◎(特に重視)の数	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0
○(重視)の数	2	3	1	2	3	0	0	3	1	3	0	0	2	3	1	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	16-B3 現代経済と企業活動		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	現代経済と企業活動c	現代経済と企業活動d	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	赤石 孝次	責任部局	経済学部
趣旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを理解するための一助として、本モジュールでは、経済社会にとり重要な国際貿易の歴史、企業の仕組みおよび活動を規律付ける法制度、政府の役割を中心とした経済学の基礎を学ぶことを目標とする。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力を怠らなければならぬ。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
経済活動と社会	小山 久美子	今日の経済社会生活に必要な不可欠となっている貿易に関して、近年の新しい現象に着目し、国際貿易体制や影響力の大きい米国に焦点を当て史的变化も追う。	国際貿易、国際的調和化、史的变化
企業の仕組みと行動	張 笑男	この講義では、会社法を中心に企業の仕組みおよび活動を規律付ける法制度について学ぶ。	会社法
経済政策と公共部門	赤石 孝次	経済学的視点からの実証分析と経済学理論、諸外国の事例を基に日本の医療分野における「改革」のための提言を考えていく。	医療経済学、コスト、アクセス、医療の質、医療費高騰の5容疑者

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
経済活動と社会	○		○		○			○		◎		○		◎	◎	
企業の仕組みと行動	○	○	○					○		◎				◎	○	○
経済政策と公共部門	○		◎	◎	○		○	○		◎		○		○	◎	○
◎(特に重視)の数	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	2	0
○(重視)の数	3	1	2	0	2	0	1	3	0	0	0	2	0	1	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	16-B4 変わり行く社会を生きる 1		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	変わり行く社会を生きる 2	変わり行く社会を生きる 3	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	内野 成美	責任部局	教育学部
趣 旨	社会の変化は、これまで私たちが経験したことのない速さで、かつ大規模に進んでいます。本モジュールでは、私たちの身近に起こっている社会の変化を、心理、社会、そして価値観という3つの視点から紐解いていきます。そして、変化する社会の中でいかに生きるか、また将来目指すべき社会の姿やよりよく生きる自分の姿について考えます。		
学生の皆さんへのメッセージ	今の社会、ひいては将来の社会の姿を作っているのは、私たち一人ひとりです。しかしその私たち一人一人は異なる意識や視点、経験を持っています。そうした“個”を意識するとともに、社会という“集団”の中で対応する力をつけるべく、本モジュールでは、私たちが生きる社会の変化について学び、これからの社会の在り方について考える機会にしましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
心と社会	内野 成美	臨床心理学の視点から、言葉の果たす役割とコミュニケーションへの理解を深める。また、発達障がい、対人緊張など、様々な対人関係の困難が生じる事例をもとに、カウンセラーの役割を知り、相談の意義を理解する。	カウンセラー、心理相談、臨床心理士
社会とマスメディア	川越 明日香 矢野 香 高橋 信雄	ことばや映像を活用して社会にメッセージを発信する新聞、ラジオ、テレビ、インターネットを取り上げ、その中でのことばの使われ方や映像の工夫などを理解するとともに、それらを批判的に受け取り、論理的に考える態度の育成を図る。	新聞、テレビ、記事、報道、マスメディア
ジェンダーと社会	植木 とみ子	社会において男性と女性の関係はどうあるべきなのか。また、歴史的に培われてきた男性観、女性観をどのように現代化していくのかなど、社会における男性と女性の役割について考える。	ジェンダー、男性観、女性観

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨							
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
心と社会		○	○	◎	◎		○	○		○		◎	○	○	○	◎
社会とマスメディア	◎		○	◎	◎			◎		○	○	○		○	○	◎
ジェンダーと社会	◎	◎	◎	○	○		○			○		◎		○	◎	◎
◎(特に重視)の数	2	1	1	2	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	3
○(重視)の数	0	1	2	1	1	0	2	1	0	3	1	1	1	3	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	16-B5 海洋の生物多様性と生態系サービス		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	海洋生態系の保全と管理	食の安全と持続的な海洋食料資源の利用	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	長富 潔	責任部局	水産学部
趣旨	海洋は生物、鉱物、エネルギーなどの様々な資源の宝庫ですが、環境共生型の社会を実現するためには、これらの貴重な資源を有効に利用し、持続的に維持していく必要があります。本モジュールでは海洋生物の形態・行動・多様性、生命現象の化学、海洋環境と生態系との関連などを理解するために必要な基礎知識を習得します。このように、海洋と海洋生物の科学について多面的に学習することにより、幅広い教養と共に、環境と調和した持続可能な社会を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につけます。		
学生の皆さんへのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。 ・授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。 		

科目名	担当者名	概要	キーワード
海の生物と多様性	菅 向志郎 竹垣 毅 柳下 直己	海洋生物（遺伝子資源も含む）の個体、個体群、群集、生態系において起こる様々な生命現象や、海洋生物資源の生産・培養技術の基礎について、幅広い視点から講義します。	生態系・生物多様性・魚類・進化・遺伝子
海洋生物資源の生化学	長富 潔 吉田 朝美 平坂 勝也	生体分子（アミノ酸、タンパク質、核酸、糖質、脂質、代謝産物等）の化学構造、機能、生命活動における役割等を学び、海洋の生物資源（海洋遺伝子資源および機能性物質等）を食品・医薬品等として有効に利用するために必要な基礎知識を養います。	細胞・生体分子・生体高分子・遺伝情報・細胞機能
海とは何か？～海洋生態系の現状と課題～	武田 重信 和田 実 未 定	海が存在と地球環境や人間生活との関わり、および、近年の複合的な環境変化が、海洋生態系に与える影響について、その現状と課題、我々が出来ることを共に考えていきます。	海洋環境・海洋資源・海洋生態系・海洋リテラシー

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
海の生物と多様性	○	○		○			◎	○		◎	◎	◎			◎	
海洋生物資源の生化学	○	○			○			○		◎	○	◎		○	◎	○
海とは何か？～海洋生態系の現状と課題～	◎	○			○		◎	○		◎	◎	○		◎	◎	○
◎(特に重視)の数	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3	2	2	0	1	3	0
○(重視)の数	2	3	0	1	2	0	0	3	0	0	1	1	0	1	0	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	16-B6 日本を知り、世界を知る		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	社会と文化の多様性	文化の交流と共生	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	首藤 昭和	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、歴史、文化、社会、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
前近代の日本と世界	木村 直樹	明治時代より前の日本を前近代の日本と言う。近年の前近代の日本列島と世界に関わる研究のトピクスをとりあげ、日本を取り巻く世界と大きく相互に影響しているという視点から、日本の国家・社会が形成されていったことを学ぶ。特に、近世(江戸時代)の海外からの技術の受容という話題も盛り込む予定であるので、技術と社会についても考えるきっかけとなしてほしい。	日本史 長崎学 技術と社会 対外交流
近現代のアジアと日本	首藤 明和	明治時代から今日のグローバリゼーションに至るまでのアジアと日本の変遷を学ぶ。特に、今後の共生社会を構想し実践するための理論と方法を、アジアと日本の家族、コミュニティ、市民社会、民族などの具体的な姿を通して考察する。	グローバリゼーション、家族、コミュニティ、市民社会、民族、共生社会
人々の暮らしから見る現代日本	才津 祐美子	われわれはよく「日本(文化)」という表現を用いるが、果たしてそれほどのようなものを指しているのだろうか。本講義では、日本の文化—とりわけ人々の暮らしにまつわる文化を研究してきた民俗学の観点から、日本における文化の類似と相違、あるいは継承と断絶について考察することで、今まで何気なく接してきたであろう身の回りの文化の再認識を目指す。	民俗学、日本、地域、文化、暮らし

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
前近代の日本と世界	◎	○	◎		◎		○	○		◎	○	◎	◎		◎	○
近現代のアジアと日本	○		◎	◎	○		○			○		◎	○	◎	◎	○
人々の暮らしから見る現代日本	◎	○	○	○	○		○	○		◎	○	◎	◎		◎	○
◎(特に重視)の数	2	0	2	1	1	0	0	0	0	2	0	3	2	1	3	0
○(重視)の数	1	2	1	1	2	0	3	2	0	1	2	0	1	0	0	3